

1 へ大学生になった、だいぶ大人っぽいV
の!?!おめでと〜!」
...え!美和彼氏できた
TF T

2 「ふふっ、学祭一緒に回りたい回りたくって言ってたもん
ねっ。」

3 「...あ、私は、特にそういう話は...」

4 「あはは...いや、なんていうか、恥ずかしながら昔の恋愛を引き
ずっているというか...」

5 「...ううん、全然カッコよくないよ。」

6 「服装のセンスも終わってるし、
どんよりしたオーラが漂って、み
るからにモテなさそうって感じの...っ!」

7 へ幻のポ。モンを見つけたようなV
「...え...あ、ご
ごめん、私
ちよっと先いくね!」

8 「ほんとごめん!あとで連絡するから!」

9 「はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、
はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、
あっ!」

10 「先輩...先輩ですよね...?」

11 「...っ、やっぱり...」

12 へ嬉しそうに煽ってるV 「…ふふっ、学祭シーズンなのに真っ直ぐ帰宅だなんて…大学でもぼっちなんですか？」

13 「あれあれ？どうしたんですか口をあんどり開けて、そんなに驚きましたか？」

14 「…たく…先輩のせいでとんだ拗らせ女になっちゃったんですからね。」

15 「ひどいですよマインのアカウントまで消して、どれだけ私がいなかったと思ってるんですか。」

16 「…先輩が、この大学に行きたいって話してたの、思い出して…」

17 「きっと先輩のことです、大学で一発逆転してやろうと猛勉強したに違いありません。」

18 「正直かなりレベルは高いですが、私もやることがないのであればからずっと勉強漬けの毎日でした。」

19 「…都合の良いこじつけだったけど、もしかしたら先輩に会えるかもって、それだけを支えにして…」

20 「出かける時も、先輩ならこのお店に寄るかもとか、きっとオタクだからこういう本屋に行くかもって、そればかり考えて…」

21 「…そしたら…本当に、あえて…ぐずっ…」

22 「…ふふっ、まあ3年かかりましたけどね。」

5301

23

「はあゝ…しかし同じ大学だというのに秋まで気がつかないとは…存在感の薄さは今でも健在のようですね。」

24

「…まあ積もる話もあるということでは…」

25

「とりあえずカラオケでも行きます？先輩の奢りでっ！」

26